

マイナーズの

食卓彩菜

この度は、「毎日のお惣菜」頒布会をご利用いただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで。

お客様の方の食卓に彩を添える季節の旬のお惣菜を、ひと品ひと品、まごころを込めてお届けいたしますので、味付けやメニュー、サービス等についてお気づきの点がございましたら、同封のはがきなどで、何なりとご意見を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

毎年、3月号は、「東日本大震災」に関して書かせていただいておりますが、書くにあたって、久しぶりに沿岸に行ってみました。当時大船渡市に赴任してありましたが、大船渡市と陸前高田市は3年程前に訪ねた時よりも商業

施設も建ち、防潮堤の建設もすすんでいるように見えました。陸前高田市は、地形などの条件もあり、盛土をしなければ建物は立てられず、あちらこちらで盛土はみられるもの、その先がどのような形になるものなのか全く想像できない感じでした。はたして私たちが

生きている間に復興された街の姿を見ることが出来るのかと案じてしまいます。しかし、あくまでこれは私達が見た目で感じた表の部分であり、すべてがそうではないと思います。「東日本大震災」から丸7年が経って、公営住宅も建ち、扉を閉じるときちゃんとプライバシーが守られる空間もできましたが、そのことで孤独になってしまっている方達も少なくありません。精神的な支援はもう大丈夫と思われるところもあるようですが、現場で、支えることがまだまだ必要と頑張っている方達との考えのズレが生じているとの声も聞こえてきます。目に見える表面の部分の復興だけではなく、見えない心

のケアも継続していったらいいと願うばかりです。

先月の平昌(ピョンチャン)オリンピックでの日本選手の活躍は記憶に新しいことと思います。

どの選手も重圧をかかえながらも、よく頑張っていて、本当に素晴らしいかと思えます。その中でも、男子フィギュアスケートの羽生結弦選手の金メダルには本当に感動しました。羽生選手は、ご存知のように地元が宮城県仙台市で、東日本大震災では被災され、避難所生活も経験しました。こんな大変なことがあった時にスケートをしてても良いのかと悩んだ時期もあったようですが、その後のソチ五輪の金メダルは、被災地に元気を届けてくれました。今回も感動とともに、直前のケガからの復活など、逆境に負けない精神力と、どんなことがあってもあきらめない強い気持ち、やり遂げる力を伝えてくれたと思います。これは、被災地で復興に取り組んでいる方々にも勇気と希望を与えてくれたのでは

ないかと思えます。インタビューで「逆境はチャンス。自分と向き合い(次を)考える」と話していました。それも支えてくれる人たちや応援の後押しがあつてのことと思います。せめて、オリンピックで選手たちを応援していたように、被災地に向けても応援や支えの一つになれるようにしていきたいと思っています。(鎌田)

「食べて健康に」をモットーに、皆様の健康づくりのお手伝いをさせていただきます。引き続きご愛顧の程、宜しくお願いいたします。



建設中の
防潮堤
(大船渡市)



矢印の位置に
「津波水位15.1M」と
表示されている看板
(陸前高田市)